

## ナシの新？害虫ナシカワホソガの性フェロモン

大林華菜子<sup>1</sup>・中 秀司<sup>1○</sup>・中田 健<sup>2</sup>・Nguyen Duc Do<sup>3</sup>・安藤 哲<sup>3</sup>

1: 鳥取大・農 2: 鳥取農林総研園試 3: 東京農工大 BASE

ナシカワホソガ(*Spulerina astaurota*)はナシの当年枝の樹皮を加害する害虫で、低農薬栽培の普及に伴いその被害が顕在化してきた。その防除は今のところ薬剤散布に頼るしかないが、幼虫期・蛹期のほとんどを樹皮下で過ごすため薬剤散布の効果が弱く、それに代わる防除法の確立が強く求められている。果実の重要害虫では性フェロモンを利用した防除の成功例が多数あり、このような防除の実用化に向けて野外にてフェロモントラップを用いた実験を行った。

本種の性フェロモンとして Z9,Z11-14:OH および Z9,Z11-14:OAc(以下 OH、OAc とする)が同定されている(Do et al., 投稿準備中)。この2成分およびその誘導体である Z9,Z11-14:Ald (以下 Ald とする)、そして本来の Z,Z 体以外の異性体を誘引源として用い、雄成虫の誘引に最適なフェロモンルアーについて検討した。なお、フェロモントラップには市販の屋根型粘着板トラップ(SE トラップ<sup>®</sup>/サンケイ化学)を用いた。誘引試験は鳥取県東伯郡北栄町および鳥取市内のナシ園にて、2010年6月15日から8月11日までと同年8月30日から10月13日まで行い、約7日に一度誘殺個体数を数えた。

フェロモントラップを用いた誘引試験の結果、OH と OAc を 7:3 あるいは 5:5 の比で混合したフェロモンルアーの誘殺個体数が多く、さらに Ald を 30%~50%加えることにより大幅な誘引活性の増加が見られた。また幾何異性体を含む合成性フェロモンにはほとんど誘引されず、本種は Z,Z 体を厳密に見分けていることが明らかとなった。トラップへの誘殺個体数は、6月下旬~7月中旬と8月下旬~9月中旬の二山形のピークを示したが、栽培体系や立地条件などによって発生時期にずれがあり、本種の防除における発生予察の重要性を示した。